

「 政宗の仙道制覇 」

2011-7/31 ~ 8 / 3 遠藤俊一



2011年3月11日、東日本大震災である。
日本の国に大きな被害を与えたと同時に日本人に強い連帯感を与えたともいえる。
私は当時、香港空港にいて直接体験をしていない。
しかし帰国直後に見たテレビの画面には唖然とした。
大変なことだ、この日本で起こったのか。
そしてそれにつぎ、世の中は自粛、自粛の流れ。このままではいけないと思った。
被災地の方を除いて、早く通常の日常活動、経済活動に戻らなくてはいけない。
それが復興にぜひとも必要だと考えた。
フランス・モンサンミッシェルにも行ったし、ゴルフにも行った。
その間、気仙沼卓球協会の直接の依頼により、日本リーグ有志と会社の有志にも呼びかけ支援品を送らせてもらった。
そうこうしているうちに夏休みが近づいてきた。

恒例の「夏休み一人旅」、何をしよう。
一昨年「秀吉の中国攻め」、昨年「信玄の信濃攻略」、戦国武将シリーズだ。
すでに、中国地方の毛利元就、東北の伊達政宗を候補に挙げていた。
今年は東日本大震災の特別な時だ、どうせお金を使うなら東北にしよう。
自然の成り行きだった。テーマは「政宗の仙道制覇」と決まった。
戦国武将シリーズ3連作の決定だ。

昨年から尋ねるところを「城」中心から「戦場」中心に変えている。
伊達政宗とくりゃ、「摺上原(すりあげはら)の戦い」だろう。
「人取橋(ひととりばし)の戦い」も入るよな。
出発点は生まれたところの米沢城、いまの上杉神社からだな。
ゴールは岩出山城から仙台城だな。
その途中ももう少し詳しく調べようと思った。

2011年7月31日(日)11時24分、山形新幹線「つばさ241号」は「米沢駅」についた。いよいよ「夏休み一人旅」のはじまりだ。

今は上杉神社となっているが、米沢城は伊達政宗が誕生から22年間住んだ城である。芦名氏を滅ぼし会津黒川城(今の会津若松城)に移るまでの居城だった。仙道制覇を果たした政宗は後に豊臣秀吉に国替えを命じられて岩出山城に移る。米沢城、黒川城、岩出山城、仙台城と移ってゆく。政宗は生涯4つの居城を持ったことになる。私の今年の夏の一人旅はこの4つの城と仙道制覇を果たした戦場を巡る旅である。だから、出発点は米沢城でなければいけなかった。

山形駅で観光案内所に入る。伊達家の史跡はあまりないという。それでも旧館跡の情報と地図をもらってタクシーに乗る。伊達家ゆかりのお寺と館跡に行ってくれと頼む。途中でローソンにより、ばかちゃんカメラを買う。帰宅してからわかったことだが、このカメラの使用期間が一日過ぎたとのことで現像の色は保障できませんといわれた代物だった。

まず成島八幡神社につく。1883年に伊達宗遠が造営した神社だという。鄙びた小ぶりの神社だった。まあ、こんなもんか。

次に館山寺に連れてゆかれる。運ちゃんが住職の奥さんに交渉してくれ庫裡に上がる。ここには秘仏があるという。虚空蔵菩薩は八百余年の由来があり、政宗が寄与した虚空蔵菩薩もあるそうだ。この近辺には、かつて、館山城があり、最近発掘調査をやったという。そこにも行ってみた。市の教育委員会による説明会が数週間前にあったという。例によって長方形の掘り起こしの土と石ころが置かれていた。山形新聞の記事によると伊達政宗公生誕の地でここは「館山東館跡」だそうだ。



「伊達政宗はこの米沢に22年もいたのに、伊達の観光案内はほとんどなく上杉に直江兼続ばかりじゃ伊達がかわいそうだ」と私が言うと、運ちゃん、困った様子で、「NHK大河ドラマの直江兼続以来そうなんですよ」と自分に言わないでくださいよとばかりに答えた。

上杉神社でタクシーを降りた。米沢城跡でもある。
運ちゃんは私に気を使ったのか、「伊達政宗誕生の地」と書かれた木製の標識の前までつれて行き写真を撮ってくれた。



ここでもまた隣の上杉景勝や直江兼続の碑と比べるといかにも貧弱だ。
運ちゃんの言う、「しょうがないですよ、仙台に行くときにみんな持って行っちゃったんですから伊達は」の言葉が聞こえた。
上杉神社の近くにある食堂で昼食をとり次の目的地「二本松」に行く。

伊達政宗は1567年に米沢で生まれこの地で22年を過ごす。先祖が同じ福島
の伊達郡にいたので伊達氏を名乗った。そして領地を広げるとともに米沢に移った。これだけ米沢と伊達氏の付き合いが長いのに今の米沢市に伊達の影が薄いのはしょうがないことなのか。上杉景勝、直江兼続や後の上杉鷹山がその後の米沢を明治維新まで続けたのだからしょうがないのかな。それでももう少し伊達を宣伝すればいいのにと考えた。しかし後で調べてわかったのだが、政宗の祖父の晴宗がそれまでの伊達郡の桑折西山城（こおりにしやまじょう）から米沢城に移したのは1548年であるから1589年に会津黒川城に行くまでの間は41年間である。長い歴史の中での41年間じゃあ米沢が伊達につれないのもしょうがないなと思直した。が、私はそのときは本気で伊達のために憤慨していたのだ。

そんなこんなを思いながら、政宗誕生の地を後にした。

政宗は父輝宗とともに“仙道制覇”の道を進むことになる。南下政策である。
次の相手は二本松の畠山義継だった。

一度畠山は伊達に降ると見せた。二本松近辺で政宗は小浜城に、輝宗は宮森城に入る。宮森城で畠山義継はだまして輝宗を人質にとって居城の二本松に帰ろうとする。それを追う伊達勢。阿武隈川畔の高田原で追いつき苦渋の選択で輝宗もろとも畠山を銃

撃して討ち取る。政宗がやったとも、そこにいなかったのて部下がやったともいわれている。怒った政宗は甲い合戦として二本松城を攻める。二本松が落ちると伊達の南下侵略につながるのて近隣の豪族と常陸の佐竹が連合軍を組織して伊達と戦う。これが「人取橋の戦い」だ。

米沢から福島に出る、東北本線に乗り二本松で降りる。駅前の「アーバンホテル二本松」にチェックイン。「人取橋」と「二本松城」は明日に残し、タクシーに乗り「栗ノ須古戦場」にまず行く。ここは輝宗を人質にとった畠山が伊達軍に追いつかれ共に命を落としたところだ。

道の脇に2～3坪ほどの地に碑が立っていた。田んぼをバックに「栗ノ須古戦場」と書かれていた。昔見た東映のチャンバラ映画で中村錦之助が伊達政宗を演じていた。川を渡れば二本松領、断腸の思いで政宗はわが父を撃つ。河原で激しい戦闘シーンだった。ところがここはただの田んぼだ。そこにぼつんと碑がたっているだけ。何だこりゃイメージとちがうではないか。



次に小浜城址に向かう。夏草がつわものどもの夢のあとを語っていた。帰りに黒塚のおばあさん跡に行く。ここは以前NEC協同組合の連中と来たことがある。行ってから思い出した。そういえば、亡き大川ちゃんが案内してくれたなと少しおセンチになった。

ホテルに戻り夕食を食べに外出する。タクシーに乗り運ちゃんにいい店はないかと聞く。ただし肉はだめだといっておく。10分はかからずに新鮮で魚がおいしいという居酒屋風の店についた。こぎれいで味もまあまあだったがこれといって特に特徴はない。3～40代であろうか若そうなおやじと取り留めのない話をしながらビールで魚料理を食する。8時過ぎには終わってしまった。飲みなおすによさそうな店はないかと聞くと目の前の国道の向こうのスナックを紹介してくれた。お互いに紹介しあっているのだろうか。それでも歩いていけるので世話はない。

スナック「フリーズ」といった。中に入るとカウンターとソファがいくつか置いてあった。まああの広さか。お客は多くはなく二組くらいだった。カウンターに座る。年配のお姉さんが相手をしてくれる。しばらくするとこれまた年配のママさんが入ってきた。交代して私の前に立って話し相手になってくれた。私が横浜から来たという以前自分もいたことがあると好意的だ。震災の後だから少しでも金を使おうと思って東北に来たと言うと、嬉しそうな顔をして近頃さっぱりだわと観光客の少なさを嘆く。すぐに唯一の若い娘と交代した。「なおちゃん」といった。ママさんが私のことを気に入ってくれたのか最後まで「なおちゃん」を付けておいてくれた。ほかのお客さんはいいのか、それとも皆さん年増好きなのか。帰りにはママさんが自車でホテルまで送ってくれた。おまけに握手までさせられた。私、よほど気に入られたのかな。

次の日はいよいよ二本松城だ。荷物をホテルに預けタクシーで行く。大手門前で降りる。今は「霞ヶ城公園」といっている。だいたい城の読み方は、後世の我々はわかりやすく地名で「二本松城」などと呼ぶが、当時の人や地元の人には「霞が城」などと通称で呼んだようだ。



「あった！」、私は二本松城址の説明板を食い入るように見た。ようやく「仙道」の意味がわかった。現在の福島地域を分けると3つになる。太平洋側の「浜通り」と中央の「中通り」と「会津」地方である。列車で言うと東北本線が通っている「中通り」を政宗の時代は「仙道」といったのだ。私は政宗の歴史本を読んで「仙道制覇」という名が気に入って今回の旅のテーマにした。それでもその本も、今回新たに見た「歴史散策」の本も、観光ガイドの本もどれも「仙道」の解説がなかった。ここに二本松城の畠山義継と政宗の係わり合いの説明の中に仙道が出ていた。そうだろうとは思ってはいたがようやく胸のつかえが降りた、やれやれ。

この城は、以前、NEC協力工場協同組合の役員の皆さんと来たことがある。私が理事長で大川さんの福島工場を見学し、雪のない岳温泉で一泊し、そして二本松城に上った。あの時は大手門道を行ったので今度は搦め手道に行くことにした。

大きな袈裟懸けの松を見てえっちらおっちらと坂道を登っていった。地方の城にして

はかなりの規模を持っている。これでは政宗も手を焼いていたのだなと納得。ようやく本丸跡らしき天守台のようなものが見えてきた。もう少しだと思ったら、通行止め。ぐるっと大手道のほうに回り込んだら、また通行止め。あの震災で石垣が崩れて修復中との事だった。天守台跡には行けなかったが、まあ、この前登ったからいいかと自分を慰めた。

大手門まで戻ってタクシーに乗ろうとしたが陰もなし。近くの店でバス乗り場はと聞くとないと言う。歩くしかありませんとのことでした。坂を二つ越してようやくホテルまでたどり着いた。

鈍行列車にのって二つ先の「本宮」まで行く。食べ物屋を探し、ようやく探し当てた駅前のすし屋で昼食。これからは「人取橋の戦い」の戦場めぐりだ。

駅前でタクシーに乗る。運転手に「人取橋の戦い」の戦場めぐりをしたいといっても通じない。ようやく人取橋の戦いの案内板があると気付いてくれた。

「その前に政宗が本陣にした古観音堂に行って」

「えっ、どこですか」

「今日輪寺でしょう」

「ああ、わかりました」

日輪寺は小高い地にあった。政宗はこの小高いところから戦場を望み見て指揮したのだろうか。



「人取橋に行って」

「はいっ」

しばらくして田んぼのあぜ道のようなところを走る。横を走る国道沿いに碑のような物が見えてきた。

「国道からいけるんじゃない」

「いえ、行けません。こちらからでないと」

車が止まる。本当のあぜ道を6～70メートルほど田んぼに落ちないように気をつけて歩く。「史跡・仙道人取橋古戦場」と柱がたっていた。



横にあった説明板を読む。

常陸の佐竹、会津の芦名、その他連合軍約3万と伊達政宗7千余が戦った古戦場であると書いていた。そしてここにも仙道（中通り）と書いてあり私はしたり顔をする。

10メートルほど向こうが国道で、ほらこっちからこれるじゃんと思ったが運ちゃんがかわいそうだったから言わなかった。それにしても古戦場の面影はない。

「次は伊達成実（だてしげざね）の陣地だった瀬戸川館跡に行くぞ」

「えっ、どこですか」

「このへんだよ」と地図を見せるがよくわからない。

「いってみましょうか」と運ちゃんはなはだ頼りない。

そこここをぐるぐる回る。私にはもうどちらが北か南かもわからない。

田んぼの脇に人家が2軒、その片方に運ちゃんが入っていった。

「わかりました、あっちの方です」

ようやく用水池の影に碑が経っていた。



「史跡伊達成実陣地瀬戸川館址」とかすかに読める。碑がなければただの草地だ。これだけあっちこっち探しながら行くと方向感覚はなくなるし、地点と地点の間隔もわからない。誰がどう戦ってどこから来てどこに逃げたかもわからない。山の上からとかヘリコプターにでも乗って望見しないと～。ガイドも必要だよな～。戦場めぐりの難しさを改めて感じた。それでも、ようやく探し当てたという満足感はある。

「人取橋の戦い」では政宗軍7千に対して佐竹・芦名・南奥州連合軍は2万とも3万とも言われる。初戦は連合軍優勢で政宗本陣まで迫られたが、伊達成実やそのとき戦死した鬼庭左月の人取橋での奮戦で苦戦の1日目を終えた。しかし優勢であった連合軍はその夜、謎の撤退をする。幸運ではあったが寡兵で大軍を破った政宗の武名が高まった。

「本宮」発14:04、郡山で乗り換え、磐越西線で「猪苗代」15:25降りる。鈍行列車で気持ちもゆったりしている。

駅前でタクシーに乗る。

「運転手さん摺上原にいて、今は三忠碑(さんちゅうのひ)があるんでしょ。その前に猪苗代城ね」

「亀ヶ城」と呼んでいたようだ。亀ヶ城址見取図を見てからちょっとした丘を登る。二本松城に比べるとずっと規模は小さい。



亀ヶ城をあとにして少し離れた「土津(はにつ)神社」に寄る。

土津神社は会津藩祖保科正之を祀った神社である。壮麗華麗な寝殿造りの社殿は「東北の日光」といわれたようだが、残念、戊辰戦争で焼失して、明治13年に拝殿などが再建された。まあまあの素朴な神社といおうか。



「人取橋の戦い」の大激戦を勝ち抜いた政宗はいよいよ仙道制覇をかけて宿敵・会津の芦名氏と雌雄を決せんとする。猪苗代城の猪苗代盛国を内応させ先峰に立て磐梯山麓の摺上原で激突する。伊達勢2万3千余、芦名勢1万6千余といわれているらしいが昔のことだ四捨五入すれば2万対2万だな。別の資料には互角の人数と書いてあった。

三忠碑はこの戦いで戦死した芦名側の三人の武将を称えて、幕末に会津松平 8 代領主松平容敬（かたたか）が建立した。旧二本松街道（上街道）沿いにあるというが、松林の中であってちょっとした軽井沢の避暑地のような感じだ。



「向こうの方から伊達勢は進んできたようですよ」と運ちゃんが言う。林のなかである。とても原っぱとは思えないし。ここで大軍勢が激突したんじゃないだろうな。ここは一局地で実際の戦場はずっと広範囲であちこちでぶつかり移動したのだろう。ここでも「戦場めぐり」の難しさを思う。「戦場めぐりはむずかしいや、来年からはちょっと考え直そう。」

「運転手さん、摺上原と書いてあるところはないかな」

「この先に部落がありますよ」

「そこ、連れってって」

磐梯町磨上部落案内図と書いてあった。ようやく摺上原に来たと実感した。



「摺上原の戦い」でも初戦は芦名勢が優勢だった。しかし伊達勢の粘りが功を奏し、結局芦名勢は敗退する。芦名義広は実家である常陸の佐竹義宣（実兄）の下に落ちてゆく。その後、「関が原の戦い」で西軍についた兄の佐竹義宣と一緒に秋田に転封され角館城主となりその子の代で名門芦名は断家した。

以前NEC協力工場協同組合の会合で角館に行ったとき、有名なしだれ桜や武家屋敷をそこそこに裏山の角館城址に部下の飯尾と一緒に登った。あの時、摺上原の戦いに思いを寄せていたら義広から盛重（もりしげ）、義勝（よしかつ）と改名していた彼に同情していたかもしれない。頂上の広場にポツンとあったブランコを思い出す。

かくて政宗は会津黒川城（のちの会津若松城）に入城することになる。1589年6月のことだった。平定戦を経てその年の内に中通り、会津両地域を勢力圏におきここに家督相続後わずか5年余で政宗の「仙道制覇」は成った。しかし、翌年の1590年は豊臣秀吉による小田原攻めであるから、まさに、時間ぎりぎりの制覇達成であった。

摺上原を後にして、このあと猪苗代湖畔にある「天鏡閣（てんきょうかく）」を見物する。天鏡閣は明治40年有栖川宮威仁（たけひと）親王殿下が東北地方旅行中に風光の美しさを賞せられて別荘を建設決定したという。明治の香りを今に伝えるルネッサンス風洋風建築である。明治の香りを浴びてから「翁島」駅でタクシーを降りる。



「会津若松」駅前からタクシーに乗り、料理旅館「田事（たごと）」に到着する。玄関を入ると囲炉裏が目に入り、いかにも日本風な旅館であり、客室が10室でアットホーム的な感じがして気に入った。

板階段を上がり和室に通される。家族風呂のようなこじんまりとした風呂で一浴びする。夕食に通されたのはかなり広い部屋でぼつんと食卓がおいてある。目の前の庭はライトアップされていてきれいだ。なんせ一人なのでゆったりはするが話し相手がいない。お運びのお姉さんに犠牲になってもらう。

ちょっと前までは震災、原発被害で避難してきた人たちを受け入れていたそう。今でも数人がまだ滞在しているという。福島では浜通り、中通りの人たちが比較的安全な会津地方に避難しているという。観光客が来ないと困った風であった。そういえば、二本松ではタクシーの運ちゃんも、飲み屋のママさんも同じようにこぼしていた。とりわけ、原発被害は深刻のようだ。次の日に乗ったタクシーの運ちゃんの話では、受け入れる旅館は自治体からは一泊8千円しか出ないからお客さんのように一泊1万3千円だすお客にはサービスがいいはずだといわれる。いろいろな被害が出ている。

それでも私にとってサービスは素朴でいいし、料理も美味しく、翌朝の食事も名物「白魚せいろわっぱめし」が満足度を加速してくれた。「次に来た時もまたこの旅館に泊まりたいな」これが私のお礼言葉でした。

次の日、政宗が仙道制覇して入城した会津黒川城に行く。今は会津若松城だが私としては黒川城と呼びたい。なんたって今回は政宗の追っかけだから。

伊達氏の後に会津領主となった蒲生氏郷が天守閣も作り、黒川を若松と改め、名前も“鶴ヶ城”と命名した。亀の次はやはり鶴だなとクスリと笑った。



以前来たことがあるので、天守閣見物もそこそこにして城を出ようとした。何気なくよった案内所でとんでもないことを聞いた。この会津若松にもう一つお城があったというではないか。神指城（こうざしじょう）という。関が原の合戦の直前、上杉景勝が直江兼続に新城と城下町の造営を命じたという。突貫工事で土塁、石垣、内堀、外堀、城門、橋を作った。しかし家康軍が迫ってきたので築城を中止して国境の重要拠点にまわった。関が原後、上杉は徳川の臣下になり神指城三門を破城して米沢に去る。のち、神指城は荒れ城となり廃城となった。

タクシーで15分くらいだろうか。原っぱでこんもりとした木立があった。旗指物のはためいていて“神指城を守る会”と書いてあった。その奥には遊歩道のようなものがあり“神指城跡”の旗指物がある。遊歩道のような土道を歩こうかと思ったが、靴が汚れそうだし、時間もないしやめた。パチリと記念写真を運ちゃんにとってもらおう。これでまたコレクションが一つ増えた。



会津若松駅に戻り、磐越西線12:02発で郡山まで戻る、東北新幹線に乗り換え古川には14:58到着。陸羽本線で岩出山駅でなく一つ先の有備館駅で降りる。15:32だった。

政宗は仙道制覇してせっかく手に入れた黒川城をわずか2年で手放さざるを得なかった。仙道制覇の翌年に起きた秀吉の小田原攻めに大遅刻したからである。ようやく秀

吉のご機嫌を取ったが、黒川城を明け渡しいったん米沢城へ移る。その後“大崎・葛西一揆”を密かに扇動した疑いで100万石余あった領地も58万石に減らされ奥州に転封される。その居城が岩出山城である。

岩出山城跡は岩出山駅からも有備館駅からも等距離にある。有備館駅のまん前に有備館があった。有備館は岩出山伊達家の家臣子弟の学問所となった建物で二代宗敏の隠居所として立てられその後学問所として使われた。この有備館と庭園は国の史跡名勝の指定を受けているという。



今度の震災の影響で主屋の倒壊、庭園園路の亀裂で3月11日から休館していたが私の悪運が強いのか一部公開となっていた。それでも主屋は修理中でブルーのビニールで被さり内は見えない。庭園の一部を歩いて外に出る。受付にいた女性が優しく岩出山城への道を教えてくれた。

10分くらいで城の大手門跡に着き岩出山に登ることになる。15分くらいだろうか息が乱れてきたところに頂上につく。そこには“岩出山城 政宗ここに12年”の標識や政宗の平服での銅像が仙台城から移転されてあった。



帰路は反対の道から降りたが小学校との境には出入り禁止の看板があったのでUターン、元の道を下りた。大手門跡からは岩出山駅への道を取る。途中、松尾芭蕉の奥の細道紀行像をみて駅に到着する。列車の時間には少し間があるので近くの小川沿いの遊歩道を回る。水量があり水も清んでいて風情があった。

政宗はこの岩出山城に12年いた。ここには天守閣などなく平屋と二階建てで構えもそう大きくなく暫定的な居城としての規模であった。この間、朝鮮出兵、関白秀次事件、秀吉死去、関が原の戦いがあり、政宗は京都、大阪にすることが多く、関が原後は仙台の青葉城を築造し移って行く。

岩出山駅から25分ほどで今日の宿がある鳴子温泉駅に17:48到着する。小雨模様のところを歩いて5分ほどの「四季の宿ますや」に入る。最上階で温泉郷を一望できる大浴場と露天風呂に浸る。鳴子温泉は有名だし一度は訪れてみようと思っていたところだ。料理もまあまあで眠りについたが、夜中に目が覚め共同トイレまで歩いていったのには参った。後になって、宿を取ってくれた秘書の小野寺さんがトイレ付きと契約したのにけしからんと宿に抗議の電話を入れていた。そこまでしなくてもいいよと思ったが、彼女の仕事のやり方はそれで、いつもしっかりしているので俺がつべこべ言うのは止めようとそのまましておいた。

翌朝タクシーで尿前の関、鳴子峡、瀧沼と観光して駅に戻る。秋の鳴子峡はきれいだろうなと想像する。



鳴子温泉駅から古川へ、そして東北新幹線で仙台に到着。仙台ループバスで仙台城に向かう。震災で経路が少し変わったというが無事本丸に到着する。その食堂で昼食を済まし、伊達政宗の三日月兜像を撮影する。もう旅も終わりだなと思った。今度の旅のテーマは「政宗の仙道制覇」だ。仙道制覇して岩出山城に転封されたところでお仕舞いだ。だから岩出山城をみたところまでがメインであとはおまけだなと思っていた。ところがまたも新事態が出現した。何気なく寄った資料館で大変なものを見た。政宗はこの仙台城が最後の城でなく晩年にもう一つ移っているという。えっ、そんなこと俺知らないよ。わたしのプライドが傷ついた。

「よしっ、行ってみよう」

タクシーに乗る。

「運転手さん、政宗の最後の城に行つて」

「えっ、そんなところあるんですか」

「若林城っていうんだって、近くにあるでしょ」

「若林はあるけど、そんなところあったけな」

「あるでしょ」

「あれかな」

「それだよ、行って」

仙台市には若林区というのがある。

政宗は二代藩主忠宗に家督を譲ると隠居城として近くに若林城を築きそこに移ったという。おそらく実際は江戸にいてあまり使わなかったのではないかと思うが、その若林城跡を探す。

「たしか刑務所として使ったところでいまは官舎があります」

「行ってみようよ」

「あれです、でも正面に回ってみます」

「おっ、あれかな」

何か小さな碑が見えた。

「若林城跡って書いてるよ！」

また、私のコレクションが一つ増えました。



帰りは東北新幹線、東海道新幹線と乗り継いで新横浜に帰ってきた。

今回の旅は新発見が多かった。神指城、若林城は全く知られてない城だった。

戦場めぐりの旅はやり方を考え出すまではいったんお休みにしないといけないか。

一方、震災の傷跡はあちこちに見られた。横浜に居住する私たちには薄れがちな関心を思い出させる。その土地土地の方とのふれあいもちょっとはあったかな。

来年の一人旅は何にしようか。